

OCHIS サンプルで分かりやすい 運輸ヘルスケアナビシステム実証実験結果

ヘルスケアネット
ワーク(OCHIS)は、全ト協の健康
管理支援事業「運輸ヘルスケアナビシステム」について、
昨年の実証実験を終
え、結果がまとめられた。実証実験から
見えてきたのは、ト
ラック運送業の想像
以上の実態で、実証
実験の結果や201
8年度以降の展開な
どについて、作本貞
子副理事長に聞いた。

事業者にとって難
しいといわれる、定
期健康診断後のフォ
ローから事後措置ま
でをサポートする目
的で構築された同シ
ステム。安全配慮義
務の遂行のために
は、定期健康診断結
果に基づき再検査、
精密検査、結果に基
づく就業上の措置を
取らなければならぬ
。システム化にあ
たっては、医学的な
知識がなくても早急
に受診を必要とする
ハイリスク者が見え
るようにし、さらに
SAS検査やほかの
情報を付加した。
「弊社(健診
を)全員受けさせて
いる」と言われる方
も、従業員の健康状
態(ハイリスク者)
が見えていない事業
主の多いことが、残
念ながら運輸事業者
の実態で、健診結果
の現状として、健診
日や生年月日などの
記載漏れが意外にも
多かった」と作本副
理事長は説明する。
今回のシステムで
は職種欄が設けられ
ており、ドライバー
に特化した健診結果
が初めて明らかにな
った。これらの結

果はドライバーへの
指導手法として、点
呼や安全教育などに
有効活用できる。
実際に健診データ
集計分析を行ったと
ころ、ドライバーと
ドライバー以外では
検査項目別有所見率
では差が見られた。
「死の四重奏」と呼
ばれる肥満・高血圧・
脂質異常・糖尿病の
項目以外にも、有所
見率が高い項目が特
に多く見られた。特
に収縮期血圧の有所
見率はドライバーが
7.6%も高く、健
康起因事故の関連性
で大いに懸念され
る。

ハイリスク者を判別

また健診受診時に
問診票で「受診中」
と記入した人は、た
とえ健診結果が悪く
ても、検査機関から
の報告書では有所見
者リストから外れて
しまし、ノーマーク
であることが分かっ
た。しかしこの中に
コントロール不良
(重症者)が多く存
在したことから、事
業主も重症ハイリス



作本副理事長

ク者を見逃してし
まっていることが判
明している。
実証実験を受けた
30社に対してのアン
ケートでは、システ
ム全体の分かりや
すさについて、「会
社全体の傾向が分
かった」「シンプ
ルなので一目で把握
できる」などといった
回答が寄せられてお
り、同システムの目
的である「見える化」
が達成できているこ
とが分かった。また
今後については、健
康管理の実践に誘導
するためのバージョ
ンアップなどが求め
られていることも明
らかとなった。

作本副理事長は
「従業員の健康状態
をひとまとめにすれ
ば、安全・健康対策
にむけての重要ポイ
ントの可視化や安全
衛生委員会資料、社
内報へのフィード
バックにも活用いた
できる。今後は、見
えたハイリスク者を
スムーズに受診や生
活習慣の改善につな
げることができるよう
なシステム、点呼
時に健康情報が生か
されるようなシステ
ムを構築できれば」と
今後の展開につい
て話す。

同システムが管理
者の手足となり現場
に落とし込まれるよ
うになれば、健康起
因事故は減少してい
く。特に労働環境が
健康格差を助長する
ことのないよう、業
界全体でのさらなる
取り組みが不可欠
だ。2018年度は、
全国5か所(福岡・
東京・大阪・愛知・
宮城)で、同システ
ムの実践的活用セミ
ナーも開催される。
作本副理事長は「健
康管理を充実させた
いという事業者の意
識の変化が増えるよ
うに、多くの方に同
システムを周知させ
ていきたい」と話した。
(木村麻理奈)
(レイアウト・文野初音)